

田無小学校、保谷第二小学校、東伏見小学校、向台小学校、柳沢小学校
柳沢中学校、田無第四中学校のPTAの方々からの事前聞き取りの内容

○実施日、場所：平成30年5月16日～7月5日 各小・中学校

生徒数と通学区域について

- ・この先5年から10年にわたって生徒数が増加することは保護者の中で話が出ている。
- ・保護者の中では、向台小の状況も踏まえ、学区域変更もやむを得ないのではないかという話も出ている。
- ・子どもの人間関係を考えると柳沢小の一部の区域を柳沢中にするというより、柳沢小すべての児童が柳沢中に進学というほうがよいのではないかと思う。
- ・東伏見小の線路より北側の児童も含めて全員が柳沢中に行くというのはどうか。
- ・一中への組み入れは可能か。
- ・保谷二小に行くと柳沢中になるため、柳沢小を学校選択し四中へ行かせるケースがあり、保谷二小の人数が減っていると感じる。
- ・学区域変更は地域が混乱するのではないか。
- ・手を尽くしてどうにもならないのであれば通学区域の変更ということは理解はできる。
- ・柳沢小区域が中学校の通学区域の見直しの対象となるのではないかという噂は5、6年前から出ている。

制度面について

- ・通学区域を変更するのであれば兄弟姉妹の配慮、学校選択制など可能な範囲での配慮が必要ではないか。
- ・学校間のバランスを市は考えてほしい。学校選択制を廃止してはどうか。
- ・向台小・柳沢小エリアから柳沢中に通学することは、危険箇所もなく安全上問題ないと思う。
- ・保二小では部活動の関係で四中を選ぶ人がいるようだ。
- ・通学区域を決めずに市内で行きたい学校に進学できるとよい。(バランスの関係で難しいとの意見あり)
- ・学校選択制の通知に生徒数・学級数など、各学校の情報があると選びやすい。
- ・生徒数の状況により学校選択制の受入れ枠を減らしていくことも必要である。
- ・学校選択制の受入れ枠を0にするとクレームが出る恐れがある。
- ・学校選択制があると学区域が変わっても進学の流れは変わらない。
- ・学校選択制で東伏見小から保谷中に流れてしまうところを改善せずに、通学区域の見直しというのは納得がいかない。

施設の改修及び増築について（四中関係）

- ・向台小のように増築となると部活などに影響が出る。
- ・1～2教室の転用であればよいかもしれない。
- ・生徒数の変動に備え、3教室くらいを見ておいたほうがよいのではないか。
- ・一時的なことであれば転用対応とするのがよいと思う。
- ・施設を増設する場合に校庭が狭くなり運動会に影響が出るのが心配である。

学校のイメージ・改善点について

- ・部活動は中学校を選ぶ基準となるが、柳沢中は人数が少なく種類が選べない。
- ・柳沢小は田無側を向いていて、嫌ということではないが柳沢中を意識していないと聞く。
- ・柳沢中は学習面での生徒への働きかけが少ないように感じる。(英検受験のメリットの説明や対策がない。)
- ・柳沢中は、保谷二小出身の生徒が多く、他の小学校出身の割合が少ないところに通わせることに不安があるのかもしれない。
- ・柳沢中は勉強の質が高く、テストのレベルが高いと思う。模試を受けると簡単だったと言っていた。
- ・柳沢中の生徒数が少ないから対応できること、他にはできないことができるなどのアピールできるところがあるとよい。
- ・アピールポイントを増やしてほしい。よい噂が広まれば柳沢中を選ぶ生徒は増えてくる。
- ・柳沢中は、面倒見がよい方がいて、放課後カフェも週1回ボランティアでやってくれている。それも1つの売りとなる
- ・部活動では、教師に専門家がいなくても、外部指導員に優秀な方が来ればアピールになる。
- ・柳沢中の体育館の設備はよい。
- ・部活動で特色を出せるとよいのではないか。やりたい部活動に行きたいという意味でも部活動でよい指導者が配置されるとよいのでは。
- ・柳沢中は、イメージの回復が必要である。
- ・柳沢小の地域は田無又は向台、武蔵境方向へ向いており、深大寺通りより東側の柳沢中の区域は未知の方も多いのではないか。
- ・生活圏も違い、イメージもなく、印象が悪い中で、柳沢中に行かせたくない思う保護者も多いのではないか。
- ・柳沢中の高校への進学状況がよい、指導内容がよいということであれば指標となるのではないか。中学校への進学の点だけでなく、卒業後の展望も見据えた学校のイメージが必要である。
- ・柳沢中は制服が可愛くなった。
- ・二中の区域から四中へ進学している生徒もいる。四中は、常に安定していて部活動も活発であるという評判がある。
- ・柳沢中は勉強ができて、向台小は活発なイメージがある。
- ・四中は生徒数が多く目が行き届かないという心配がある。そういった理由で柳沢中を選ぶ人もいるようだ。
- ・柳沢中は広く環境はよいが、風評がある。
- ・保谷中は狭い所に生徒がたくさんいるという感じである。
- ・柳沢中の内申点の評価が厳しいという話がある。
- ・柳沢小区域から保谷第二小に通学している児童でも、柳沢中は部活動が少ないため、部活動の盛んな四中を選ぶ子がいる。
- ・柳沢中は人数が少ないためか活気がない。地域に公開されている行事がない。
- ・柳沢中に目玉的なものがほしい。文化祭に地域を巻き込んで、お兄さん、お姉さんたちと一緒に学校に行きたいと思われるような取り組みが必要。接することで愛着が生まれる。
- ・保谷中は明るいイメージ。運動会も活気がある。

その他

- ・保護者は自分の家を中心に考えるため、兄弟姉妹で学校が異なるのは心情的に難しい。
- ・子どもへの負担、家の状況を考えて欲しい。
- ・在校生に生徒数の増加で施設環境など影響が出ることを周知する必要がある。
- ・生徒数が増えると荒れる可能性があるのではないか。校内における改善策や対応策が必要になるかもしれない。
- ・各学校の教育内容に差がないようにまんべんなく教育が行われていれば理解もいただけるのではないかと。
- ・公立の場合、先生が変わる。私立は教員の体制等が安定しているため、私立を受験する人の気持ちも分かる。
- ・学校を選ぶ理由は、友達と部活動どちらも同じではないかと。
- ・保谷中は人数が多いため、分け合って活動している。
- ・部活動の大会の進出状況も学校選びに影響する。
- ・柳沢小の児童が柳沢中に来ればシャッフルされる。
- ・仲のよい友達のところに行く傾向がある。
- ・給食で特色を打ち出すこともでき、食育にもなり親としてもありがたい。
- ・卒業してもつながっていられるような関係性を築けるとよい。
- ・柳沢中をこれから良くしていこうというならいくらでも手伝う。